

主 題：恵みシリーズ14、罪の奴隷から解放される
聖書箇所：ヨハネの福音書 8章30-36節

今日、私たちは「信じる」ということについて考えます。みことばを読みますが、どうぞ、注意してそのみことばをご覧ください。ヨハネ8：30「イエスがこれらのことを話しておられると、多くの者がイエスを信じた。」、48節「ユダヤ人たちは答えて、イエスに言った。「私たちが、あなたはサマリヤ人で、悪霊につかれていると言うのは当然ではありませんか。」、52節「ユダヤ人たちはイエスに言った。「あなたが悪霊につかれていることが、今こそわかりました。アブラハムは死に、預言者たちも死にました。しかし、あなたは、『だれでもわたしのことばを守るならば、その人は決して死を味わうことがない』と言うのです。」、59節「すると彼らは石を取ってイエスに投げつけようとした。しかし、イエスは身を隠して、宮から出て行かれた。」、これらすべては、今30節で見たように、主イエス・キリストを信じた者たちがイエスに対して為したことです。なぜ、彼らはこのような言動を取ったのでしょうか？イエスを「信じた」者たちが、どうしてイエスに敵対する言動を取ったのか？不思議に思います。大きな疑問です。

「信じた」と言う彼らの信仰と私たちがもっている信仰が同じとは思えません。このなぞを解くカギはこの「信じた」ということばにあります。30節に「多くの者がイエスを信じた。」、31節に「そこでイエスは、その信じたユダヤ人たちに…」とありますが、このことばは、神学者モーリスが言うように、「うわべだけの告白をした者たち」という意味で用いられています。実際に、この後イエスの教えを見ていきますが、そこではモーリスが言っていることが確かに事実であることを私たちは見ます。主イエスはその後、「救われたと自分で言っているだけの者：自称クリスチャン」と「神によって救われた者：本当のクリスチャン」との違いを明らかにしておられます。

そのイエスのメッセージを見ると、まさに、ここで「信じた」と言っている者たちが「うわべだけの告白をした者たち」であるという結論に達します。イエスはここで「自分は信じた」と言っている者たちに、「実は、あなたがたは救いに与っていない」ということを明らかにされたのです。そのためにこの教えをされているのです。自分たちは「信じた」と思っている彼らに実はそうではないということに悟らせるためにこのメッセージを与えておられます。

この教えを通して、少なくとも、二つのことを明らかにされました。

(1) 主イエスが神であること

なぜなら、主はすべてのことをご存じだからです。主は彼らの心の中を知っておられるということです。ですから、主は「信じた」と言う彼らのことばではなくその心をご覧になっているのです。そして、「あなたがたは救いに与っていない」と言われます。私たちは何度も、このヨハネの福音書を通して、イエスが人間の心の中をご覧になっていることを学んでいます。その一つは、ヨハネ6：64「しかし、あなたがたのうちには信じない者がいます。」——イエスは初めから、信じない者がだれであるか、裏切る者がだれであるかを、知っておられたのである——、最後の晩餐のとき「まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたのうちのひとりが、わたしを裏切ります。」（ヨハネ13：21）と言われました。面白いことに、弟子たちのうちのだれひとりとしてそれがユダであることに気付いていません。しかし、主は知っておられました。13：11「イエスのご自分を裏切る者を知っておられた。…」、また、ペテロは神についてこのように言っています。使徒の働き15：8「そして、人の心の中を知っておられる神は、私たちに与えられたと同じように異邦人にも聖霊を与えて、彼らのためにあかしをし、」と。

あなたの心のすべてをご存じの神、あなたの心のすべてをご覧になっている神、だから、神なのです。それが聖書が私たちに教えている神です。私たちはいろいろなことを神に説明しなければならないのではありません。私たちに何が必要なのか？神はご存じです。あなたがどのような思いをもっているのか？神はご存じです。ですから、私たちが今から学ぼうとしているイエスのメッセージを見るときに、確かに、イエスは真の神であることを知ります。

(2) 本当の救いが何であるか

本当の救いとは「人を生まれ変わらせること」です。神によって救われた人には必ず変化が生じます。その人たちの歩みに、生活に、生き方に変化が生じます。それが聖書が教える「神が与えてくださる救い」です。信仰者は変えられて来ました。パウロも変えられました。それを見た人々は信じられなかった。使徒の働き9：19-22をご覧ください。「：19 食事をして元気づいた。サウロは数日の間、ダマスコの弟子たちとともにいた。：20 そしてただちに、諸会堂で、イエスは神の子であると宣べ伝え始めた。：21 これを聞いた人々はみな、驚いてこう言った。「この人はエルサレムで、この御名を呼ぶ者たちを滅ぼした者ではありま

せんか。ここへやって来たのも、彼らを縛って、祭司長たちのところへ引いて行くためではないのですか。」:22 しかしパウロはますます力を増し、イエスがキリストであることを証明して、ダマスコに住むユダヤ人たちをうろたえさせた。」。パウロ自身もこのように告白しています。Ⅰテモテ1:13「私は以前は、神をけがす者、迫害する者、暴力をふるう者でした。それでも、信じていないときに知らないうちに、あわれみを受けたのです。」と。恐らく、皆さんもそのことを経験なさったはずです。救いというのは私たちに新しく生まれ変わらせるものです。

今日のテキスト、ヨハネ8章を見ると、イエスは「信じた」と言っているが、実は信じていない人たちに対して、自分の心を吟味する機会を与えておられます。彼らが自分の心を正しく吟味するようにとこのメッセージを与えておられるのです。このメッセージを見て教えられることは、主なる神はどれ程愛とあわれみに富んだお方であるかということです。人々がしたことは神に逆らい続けることです。でも、そのような人々に対して神は常にあわれみと赦しを喜んで提供しておられます。

そして、31, 32節には「本当の弟子の特徴」が記されています。イエスはそのことを明らかにすることによって、多くのユダヤ人たちが自分の信仰が本物かどうか、自分は今日死んでも本当に天国にいけるのかどうか、そのことをしっかり吟味するようにと、その機会を与えられたのです。

1. 本当の弟子の三つの特徴 31, 32節

救われている者たちの特徴です。

1) わたしのことばにとどまる者 31節

31節「そこでイエスは、その信じたユダヤ人たちに言われた。「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。」、その人は主のことばから離れることなく留まり続ける人です。というのは、ここにある「弟子」ということばは「学ぶこと、教えを受けること」という意味から派生したことばだからです。また、このことばは「従う、だれかの弟子になる」という意味をもったことばでもあります。ですから、「弟子」とは「主人である主なる神に、また、その教えや命令に従い続ける人」と言えます。まず、そのことをはっきりしておかなければいけません。なぜなら、イエスはここで「あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。」と言われたからです。イエスが言いたかった意味は、「本当の弟子、救いに与っている弟子は、主なる神に従い続け、主から教えを受け、その教えを喜び、喜んでそれに従う者たちだ」ということです。

皆さんはイエスが与えた大命令が何であったかご存じでしょう。数々の命令の中の一番大きな命令は何か？弟子を作るということです。マタイ28:19から見てください。「:19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。」、この「弟子としなさい。」が中心的な動詞です。中心的な命令です。「そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、:20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るよう、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」。この大命令は、私たちが出て行って人々に福音を語り、そして、その福音を信じた人たちに「主が命じておられることをしっかり守るよう」と教えなさいということなのです。

でも、実際に、「信じる」と告白した人が後に主から離れてしまったり、主に背を向けて生きていることを私たちは知っています。イエスがここで言われたのは、「信じた」と口で言っているながら本当の弟子ではなかった人たちのことです。そのような人たち、あるときはイエスを信じたことを喜んでいられるかもしれない、でも、あるときを境にして、主イエス・キリストに背を向け、主イエス・キリストを否定して生きている人たち、教会にいてバプテスマを受け教会で奉仕をしていた、でも、そこから離れてしまってイエスを信じていない人たちと同じような生き方をしている人たち、私たちは彼らをどのように見たらいいのでしょうか？

感謝なことに、聖書はそのことを教えてくれています。Ⅰヨハネ2:19「彼らは私たちの中から出て行きましたが、もともと私たちの仲間ではなかったのです。」、ヨハネは次のように続けています。「もし私たちの仲間であったのなら、私たちといっしょにとどまっていたことでしょう。」と、この「とどまる」ということばはこれから何度も見ていきますが、この動詞は非常に大切です。彼らはもう離れてしまったのです。彼らはもう「とどまって」いなかったのです。その状態を指しているのですが、なぜ、彼らは出て行ったのか？なぜ、私たちとの交わりを蹴って出て行ってしまったのか？そして、もう神のこともイエスのことも考えない、みことばに従おうともしない、いったいどうなってしまったのか？それは「しかし、そうなのは、彼らがみな私たちの仲間ではなかったことが明らかにされるためなのです。」と書かれています。「救われている」と言っていたかもしれない、でも、実はそうではなかったのです。大変ショッキングなことですが、それが聖書が教えていることです。

同じヨハネはヨハネの手紙第二でこのように言っています。Ⅱヨハ1:9「だれでも行き過ぎをして、キリストの教えのうちにとどまらない者は、神を持っていません。その教えのうちにとどまっている者は、御父をも御子をも持っています。」、何のことか？簡単に説明します。偽りの教師たちが入り込んで来ました。こ

の「行き過ぎをして、」とはおもしろいことばです。「前に行く、先へ進む」という意味をもったことばです。もしかすると、彼ら、偽教師たちはこのようなメッセージを伝えたのかもしれませんが。「あなたがたの信じている教えよりも遥かに進んだ教えです」と、その意味でヨハネはここで「行き過ぎをして、」ということばを使ったのかもしれませんが。でも、この9節を見ると「ある人たちはイエス・キリストの正しい教えから別の教えに外れていってしまう」と言っています。なぜ、このようなことが起こるのか？ヨハネは「彼らは「神を持っていません。」と言います。

「その教えのうちにとどまっている者は、」と、また、「とどまる」ということばが出て来ました。先の「とどまる」は完了形ですが、ここは現在形です。その教えに継続してとどまり続ける者は「御父をも御子をも持っています。」と、つまり、救われているとヨハネは教えるのです。しかし、残念なことに、正しい教えから外れてしまって、誤った教えに惑わされてしまった人たち、彼らは「神をもっていない」のです。本当の弟子の特徴はまず、「わたしのことばにとどまり続ける者たち」であると言います。もちろん、私たちはときに神のことばに逆らってしまったたり、罪だと分かっているながらその罪を犯すことがあります。でも、ここで言われているのはそのような者のことではありません。彼らはもう神から離れて神に対して何の関心も示しません。神を知らない人と同じような生き方をして何の抵抗もない、そういう人たちのことです。

2) 真理を知っている者 32節

「本当の弟子」の二つ目の特徴は「真理を知っている者」です。32節に「そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」とあります。まず、私たちが考えなければいけないのは、この「真理」とは何か？です。

(1) 主イエスに関すること : イエスがだれなのか？

人々は繰り返しイエスに質問しました。「あなたはだれですか？」と。イエスがだれであるかを彼らは知らなかった、真理を知らなかったのです。ですから、私たちは「真理」、すなわち、イエスがだれなのか？を知ることで、イエスは「真の神」です。イエスは「真の救い主」です。イエスは「真の主」です。信じようと思えば、これが主イエス・キリストです。

・真の神 : 父なる神と等しく、唯一の神であられ、すべての被造物によって崇められるお方です。

・真の救い主 : 十字架と復活によって完全な救いを備えてくださったお方です。

・真の主 : すべての被造物が愛と恐れをもって服従すべきお方です。

これが、主イエスに関する真理です。これが聖書を通して私たちが知るイエス・キリストの人物像です。ですから、「真理」を知っている者とは、イエス・キリストがだれであるかを知っている者のことです。

(2) 主イエスの教え : イエスが語っておられること

同時に、「真理を知る」とはイエス・キリストを正しく知ることでなく、イエスが語っておられることを知っていることでもあります。ヨハネ14:6で「イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」と言われました。神であるイエス・キリストは、真理であるイエス・キリストは真理しか話すことができません。彼が語ることは常に真理です。彼自身が真理であるから、何が真理かを知っておられるのです。人の起源に関しても、世の中が何を言ったとしても、この主は私たちに私たちがいったいどこから来たのか？どこから生まれたのか？そのことを教えています。どのようにして私たちがこの世に存在するようになったのか？真理である神が私たちに教えてくれます。悲しいことに、私たち人間はその神を否定するゆえに、どうして私たちが存在するようになったかを科学的に説明しようとする。悪あがきです。彼らは言います。「ものは偶然に発生した」と。悲しいことに、今だかつて、進化論が真理であるとは証明されていません。神を否定する人間はそれしか選択肢がないのです。

なぜ、私たち人間が存在しているか？それを知りたいければ、真理である神が私たちにくださった聖書にいきます。聖書を見ると、私は何のために生きているのか？創造主なる神が私に何を望んでいるのか？そのことを知ることができます。もし、私たちが神に喜ばれる家庭を築きたいなら、その方法も真理である神は教えてくださっています。どのようにして夫婦関係を保つのか？どのようにして子どもを育てていくのか、聖書はちゃんと教えてくれています。人が幸せや満足を得るためにどうすればいいのか？その方法も神は教えてくれています。人の罪が赦される方法も神は教えてくださっています。

パウロはエペソ1:13で「この方にあつてあなたがたもまた、真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じたことにより、約束の聖霊をもって証印を押されました。」「真理のことば」「救いの福音」とこのように語っています。みなさん、本物の弟子になるためには、この救いに与るためには、私たちは真理を知らなければなりません。主イエスがだれなのか？そして、その方が語られた真理を知ることです。

3) 真理によって自由にされた者 32節

本物の弟子とは、主に従い続ける者、そして、真理を知っている者、三つ目に「真理によって自由にされた者」です。真理を知っているだけではいけないのです。その真理によって自由を得た者です。それが本当の弟子だと言います。この「自由」とは「自由にする、解放する」ということばです。しかも、これは「救い」と同意語です。ですから、自由にされた人とは救われた人のことです。真理を頭で知るだけでは不十分であって、救われなければいけないのです。なぜなら、神についての真理は悪霊でさえも知っているからです。ヤコブ2：19をご覧ください。「あなたは、神はおひとりだと信じています。りっぱなことです。ですが、悪霊どももそう信じて、身震いしています。」。

⇒問題は、真理であるお方を信じ受け入れたかどうか？

イエスが言われている順番は大切です。私たちはしっかり真理を知ることが必要であり、その真理を心から信じ受け入れることが必要です。この真理である神と自分自身が個人的関係にあるかどうかです。トマスは復活された主イエス・キリストに出会った時に何と言いましたか？ユダヤ人たちは迫害を恐れて集まっていました。イエスはその家の中に入ってトマスに対して「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」（ヨハネ20：27）と言われました。そのときにトマスが言ったことは20：28「私の主。私の神。」でした。トマスは主イエスを「私の主、私の神」と告白したのです。みなさん、お気づきになりますか？トマスは「イエスさま、あなたは神です。イエスさま、あなたは主人です。」とは言いませんでした。「私の神、私の主」と言って、個人的な関係を表わしました。初めに話したように、この方は、あなたが信じようと信じまいと、神であり救い主であり、そして、主なのです。

- ・真の神をあなたの神として受け入れたか？ : この方だけを崇める
 - ・真の救い主をあなたの救い主として受け入れたか？ : このお方だけがあなたを罪から救ってくださる
 - ・真の主をあなたの主人として受け入れたか？ : このお方にすべてを捨ててお従いする
- なぜなら、受け入れることによって、神はあなたを自由にしてくださる、救いを与えてくださるからです。

パウロは「真理によって自由にされた人」のことをこのように言っています。ローマ6：17「神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規準に心から服従し、」、6：18「罪から解放されて、義の奴隷となったのです。」、6：22「しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得たのです。その行き着く所は永遠のいのちです。」、自由にされるのです。私たちを拘束して来たこの罪から、私たちの上に重くのしかかっていたこの罪ののろいから解放されるのです。どのようにして？この真理を自分のものとして信じ受け入れることです。

ですから、この三つの特徴をお分かりになったでしょう？イエスを信じている人はイエス・キリストに従い続けていく人であり、その人は真理を知っている人であり、真理を心から受け入れている人であると。だから、みことばは救われた人に新しい生き方を要求するのです。なぜ、神が私たちに「このように生きていきなさい」と命令するのか？それは、新しく生まれ変わった私たちはそのように生きていくことができるからです、皆さん。新しく生まれ変わったことによって、神が命じておられるその命令に私たちは従っていくことができるのです。だから、みことばは「こう生きなさい」という命令を与え続けているのです。

主は私たちに「このように生きていきなさい」とみこころを示してくれています。それを聞いた時に私たちの応答は「主よ、私はそのように生きていきます。どうぞ、助けてください。」です。救いにおいても神の助けが100%必要でした。救われた者として生きていくためにも100%神の助けが必要です。感謝なことに、その助けは与えられるのです。

☆ 「本当の救い」とは、「人を新しく生まれ変わらせること」である

私たちは真理を知り、その真理を受け入れて主イエス・キリストに従っていく決心をしたのです。そして、神があなたを救ってくださった時に神が為されたみわざは、あなたを新しく生まれ変わらせてくださり、喜んでこの方に従っていこうというように変えられたことです。思い出してください。この8章の初めを見た時に、姦淫の現場で捕えられた女性にイエスは「今からは決して罪を犯してはなりません。」と言われました。罪を犯さない人になるということではありません。これまでの生き方とは違う生き方があなたに待っていると、そのことをイエスは命じられたのです。なぜなら、そのように歩いていくことができるからです。

パウロはエペソ人への手紙でエペソの教会の人たちにこのように言っています。4：1「さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。」と。救われた者はそれにふさわしく生きていきなさいと教えています。テサロニケの教会に対してもパウロは同じことを言っています。Iテサロニケ2：12「ご自身の御国と栄光とに召してくださる神にふさわしく歩むよ

うに勧めをし、慰めを与え、おごそかに命じました。」、神があなたを救ってくださったのならそれにふさわしく生きていきなさい。なぜなら、その生き方が私たち信仰者にはできるからです。それを神は私たちに望んでおられるのです。そして、そのために私たちを救ってくださったとも言えるのです。パウロはⅡテサロニケ1：11で「そのためにも、私たちはいつも、あなたがたのために祈っています。どうか、私たちの神が、あなたがたをお召しにふさわしい者にし、また御力によって、善を慕うあらゆる願いと信仰の働きとを全うしてくださいますように。」と記しています。パウロの祈りは、このテサロニケのクリスチャンたちが召された者にふさわしく生きていくようにということでした。

ですから、真理によって自由とされた者、この救いに与った者たち、本当の弟子たちは、救いにふさわしく生きるだけではありません。この罪のさばき、のろい、束縛から解放されたことを喜んでいますが、あなたはそれを喜んでいますか？「神さま、ありがとうございます。この私を罪から救い出してください。ありがとうございます。神さま、感謝します。私のような者を生まれ変わらせてくださった。私を新しく造り変えてくださったことを感謝します。」と、本当の弟子たちはそのようにして生きているのです。口だけの偽の弟子たちもいたのです。もしかすると、彼らは知識は持っていたかもしれませんが、でも、彼らはこの主を個人的に知りませんでした。あなたがそのような人でないことを願います。みことばが教えるように、あなたが本当の弟子であることを願います。本当の救いに与っていることを。

イエスはこうして人々に「自分の心を吟味してみなさい。『信じた』と言っているけれど、本当にあなたは生まれ変わっているのか？あなたは本当にこの神の弟子にして頂いたのか？あなた自身の生き方はどうなのか？」と、これはあなたの永遠に関することです。どちらでも良いということではありません。一人ひとりが真剣にこのことを考えないといけません。

2. 彼らが本当の弟子ではない理由 33, 34節

彼らが実は救われていない、その理由が33, 34節に書かれています。

1) 「自由になる」ことの必要性を感じていない 33節

33節「彼らはイエスに答えた。「私たちはアブラハムの子孫であって、決してだれの奴隷になったこともありません。あなたはどのように、『あなたがたは自由になる』と言われるのですか。」、彼らは自分が自由になることの必要性を感じていません。イエスが「自由にされる」と言われた時に「なぜ、それが私に必要なのか？」と問い返しています。彼らはその必要性に全く気付いていないのです。

そこで、イエスは「あなたがたは実は罪の奴隷である」と説明を加えるのです。34節「イエスは彼らに答えられた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。罪を行っている者はみな、罪の奴隷です。」と。「罪の奴隷」と言われました。「あなたはこの世を愛している。常に流行に乗った生き方を求めている。そうでなければ満足しない。だれよりも自分自身を愛するゆえに、自分の思い通りに生きようとしている。何よりも金を愛する生き方をしている。お金さえあれば今よりも絶対に幸せになれると思い込んでいる。快樂を愛するゆえに、それを満たすためなら何でもしようとしている。あなたはそのような生き方からまだ解放されていない。なぜなら、あなたはまだ罪の奴隷だから。」ということ。」「どうして私にそんな救いが必要なのか？私が自由にされることがなぜ必要なのか？」という彼らの答えを見る時に、彼らは真理を悟っていないことが明らかです。

2) 罪を行なっている 34節

もう一つ、彼らが救われていない理由があります。34節に「罪を行っている者はみな、罪の奴隷です。」とあります。イエスは「あなたがたの問題は、あなたがたが罪を行ない続けていることだ」と言われるのです。この「行っている」という動詞も現在形を使っています。継続して罪を犯している人たちのことです。習慣的にそのように生きているのです。これがクリスチャンとそうでない人たちとの決定的な違いなのです。今から大切なところを見ます。ヨハネ第一の手紙3：6-9をご覧ください。

「:6 だれでもキリストのうちにとどまる者は、罪を犯しません。罪を犯す者はだれも、キリストを見てもいないし、知ってもいないのです。」、説明します。「キリストのうちにとどまる」、ここにも「とどまる」ということばが出て来ました。現在形です。キリストのうちにとどまり続けるのです。「罪を犯しません。」、これも現在形です。継続して罪を犯さない、習慣的に罪を犯さないということです。ですから、キリストのうちにとどまる者、つまり、救われている人のことですが、その人たちは継続して習慣的に、これまでと同じように罪を犯し続けることはないと言うのです。

そして、「罪を犯す者はだれも、」、この「犯す」という動詞も現在形です。継続して罪を犯し続ける人は「…だれも、キリストを見てもいないし、知ってもいないのです。」と。この「知っている」は完了形です。つまり、その人は救われていないということです。皆さん、よくご覧になりましたか？ヨハネが繰り返して教えていることは、救いに与っていない者の特徴は、罪の中を歩み続けていること、周りの人がその人を見て彼がクリスチャンかどうかは全く分からない、イエスを信じていない人と同じような生き方をしている、そして、その生き方を継続してそこには全く罪悪感をもっていないのです。これは罪だか

ら主の前に悔い改めなければならないという、そのような思いは全くないのです。もしかすると、彼らは「罪赦されたのだから、この地上の生活をできるだけ楽しめばいい」と思っているかもしれません。残念ながら、それは聖書が教えている救いではありません。

皆さん、私たちが気付かなければいけないのは「救いは神からのプレゼント」だということです。あなたがどんなに努力をしても、あなたの努力によって得ることのないものです。神があなたにくださるのです。そして神がくださる救いは完璧なものであり、その救いはあなたを新しく造り変えてくれます。造り変えられた私たちのうちにはこの真理に対する渇きが出て来ます。神のことをもっと知りたい、神を喜ばせていきたいと…。だから、罪に対して私たちはより敏感になり罪から離れようとするのです。このヨハネの手紙の中で見ているのは「救われていない人たちの特徴」です。

続けて見てください。8節「罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。」。「罪を犯している」、これも現在形です。継続して罪を犯している者は悪魔から出ている者だと言います。なぜなら、「悪魔は初めから罪を犯しているからです。」、この「犯す」も現在形です。ですからヨハネは、もしだれかが罪を継続して習慣的に犯しているなら、それはサタンと同じだと言っているのです。サタンもずっと罪を犯しているからです。そして、9節「だれでも神から生まれた者は、罪を犯しません。」、この「犯す」も現在形です。「罪を犯し続けていかない」ということです。私たちクリスチャンは罪赦されていながらも罪を犯します。でも、ここはそのことではありません。救われていない人たちの特徴は、罪を継続して習慣的に行ない続けるということです。「なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。」、「とどまっている」という動詞も現在形です。「その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。」、「罪を犯す」も現在形です。

ですから、9節では、神から生まれた者、救われた者は継続して罪を犯すことをしない、なぜなら、その人のうちには神の種が継続してとどまっているからです。その人は神から生まれたので、救われたので、継続して罪を犯し続けることができないと言うのです。非常に明確です。こうしてヨハネは、救いに与っている人とそうでない人をこのように詳しく教えてくれています。ですから、どんなに「私はイエスを信じた」と言っている人も、その人が罪の中を歩み続けているならその人は救われていないのです。クリスチャンは常に神の前に罪の悔い改めを行ないます。救われている人たちは、私の罪によって神を傷つけたと言ってこの神の前に心から悔い改めをしようとしません。でも、救われていない人は、どんなに知識があっても神の前に改めようとしません。彼らは継続して罪の中を生き続けるから「この人たちは救われていない」とイエスがそのように言われたのです。

3. 彼らへの救いの勧め 35, 36節

それでもイエスは、この人たちに対して救いの勧めを為しておられます。35-36節「:35 奴隷はいつまでも家にいるのではありません。しかし、息子はいつまでもいます。:36 ですから、もし子があなたがたを自由にするなら、あなたがたはほんとうに自由なのです。」。

1) 祝福を得ることの必要性 35節

イエスはまず祝福を得ることの必要性を教えられました。奴隷と息子の対比、その違いからそのことを教えています。当時の人々はこのメッセージを良く理解しました。なぜなら、奴隷がいたからです。確かに、奴隷はいつまでも家にいませんでした。いつ売られてしまうか分からないし、人々は奴隷をものとして扱ったのですから、いつ殺されてしまうかもしれません。いつまでもいる訳ではなかったのです。主人の家で楽しめるのは一時的であって永遠のものではなかった、そのような背景があります。イエスはユダヤ人たちに対して、なぜ、このような話をされたのでしょうか？ユダヤ人たちはこのように考えていました。「自分たちはアブラハムの子孫だ。イシュマエルではなくてイサクの子孫だ。神に選ばれた者たちである。だから、自分たちはこの神の家に居続けることができる。」と。

そこでイエスは「そうではない」ということを教えるのです。なぜなら、彼らは自分たちはそうとは認めていませんでしたが、罪の奴隷だからです。「奴隷はいつまでも家にいるのではありません」、いつまでもこの恵みの中に居続けることはできないと言うのです。何のことですか？「さばき」があるということ。イエスは言われたのです。確かに、今はこうして神の恩恵のうちにあって、神の祝福の中を歩んでいるかもしれない、でも、それは長く続かない。なぜなら、必ず、あなたがたの罪がさばかれるその日がやって来るからと、だから、イエスはこうして彼らが罪の奴隷だということを繰り返し教えて来られたのです。

罪の奴隷であるなら、その人はこの祝福に与ることはありません。民族としてどんなに優れていようと。だから、彼らに永遠の祝福が約束された訳ではありません。私たちもそうです。クリスチャンホームに生まれ育った子どもはたくさんいます。すばらしい環境です。生まれる前から神の話を聞き、神の恵みを知り、祈りの中で育って来ています。だからと言って、彼らすべてがこの救いに与るかということ、そうでないことは皆さんよくご存じです。一人ひとりがその選択をしなければいけないからです。自動

的に永遠の祝福にはいれるということではありません。ですから、イエスは「祝福を得ることの必要性」をもう一度この人たちに話すのです。そして、その後で、では、どうすればその祝福を得ることができるのか、そのことが36節に書かれています。

2) 祝福を得る方法 36節

「子によって自由にされる」と。「子」とはこの文脈を見ると明らかです。イエスのことです。ヨハネ1：14に「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。」とある通りです。イエスがあなたがたを自由にするなら、あなたがたは本当に自由なのだということです。思い出しませんか？ヨハネ1：12「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」、罪の奴隷であった私たちは、このイエス・キリストという真理を信じることによって生まれ変わったのです。神の子どもとして生まれ変わったのです。だから、私たちはこの祝福の中を永遠に歩み続けることができるのです。

ローマ8：2には「なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。」とあります。また、ヘブル2：14、15にも「:14 そこで、子たちはみな血と肉とを持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。これは、その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、:15 一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた人々を解放してくださるためでした。」と書かれています。

イエスが言われたように「息子はいつまでもいます。」。私たちもこのイエスによって罪からの救いを頂いたなら、神の子どもとされたなら、私たちはこの祝福の中を歩み続けることができると言うのです。

今日、私たちは「信じた」と言っているユダヤ人に対するイエスのメッセージを見て来ました。非常に大切なメッセージです。なぜなら、あなたの永遠がそこにかかっているからです。どうぞ、ご自分の心を吟味してみてください。今日、何があっても私は確実に天国に行けるのかどうか？間違いなく、今日死んでも天国に行けると。それはこのみことばが教えていることをあなたが信じているかどうかです。あなたの気持ちや感情がどうか？ということではありません。あなたは真理を知っていますか？そして、真理を心からあなたのものとして信じましたか？そして、あなたの生活は神によって変えられていますか？本当の弟子はそのような主の働きを経験する者たちです。

愛する皆さん、この大切なことを是非考えてください。皆さんを愛するゆえに、このメッセージが余りにも大切なゆえに、一年の初めのこの時にこのことを話しました。どうぞ、ご自分の心を吟味してこのすばらしい救いに与ってください。主だけがあなたをその罪から解放してくださる方です。新しく生まれ変わらせてくださる方です。この救い主のもとに出て来ることです。そして、この救い主をあなたの救い主と信じ、ぜひ、この救いに与ってください。

救いに与った人たちは心から感謝をしながら救われた者にふさわしい歩みを続けてください。神はそれを望んでおられます。そして、神はそのようなあなたを助け続けてくださいます。

ローマ8：1「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。」

《考えましょう》

1. 主イエス・キリストの本当の弟子であることの証拠を挙げてください。
2. 主イエスの弟子とはどのような人かを説明してください。
3. 「信じたユダヤ人たち」が救われていなかった理由を挙げてください。
4. どうして自分の救いを吟味することが大切なのでしょうか？